

## グリーティング

まだ五月だというのに、梅雨のような空模様が続いています。むし暑くなり冷たいお水が恋しくなる季節です。今では日本の、いえ世界の名水を簡単に買うことができますが、元禄時代も江戸や京ではお水を買って飲んでいました。夏の間だけ、冷や水売りが登場し、井戸で汲んだ冷たい水を桶や天秤棒で担いで、「ひゃっこい、ひゃっこい」の売り文句で町を練り歩き、辻々に立ちました。暑さでぐったりしている人々は、こぞって一杯四文（約100円）の水を買い求め、暑さをしのぎました。つると喉を通る白玉入りの甘い水も少し高いのですが、人気商品でした。又、容器は、触感の冷たい真鍮や錫などのお椀が使われていたようです。炎天下で売り歩くうちに、冷水はぬるま湯になり、それでも人々は買って喉をうるおしました。こんな川柳が残っています。

— ぬるま湯や辻々で売る暑いこと — 水も保冷剤もない江戸時代の水の話ですが、ペットボトルの冷えたお水をグイッと飲む時に、思い出してみたいですか。 S. K



江戸の冷や水売りの様子

## 技工情報

### ◎ジルコニアについて

#### 《 歯科におけるジルコニア 》

補綴物の溶出成分が関係しているアレルギーとして広く知られているのが金属アレルギーになります。ニッケル、水銀、パラジウム等が広く知られています。

近年では、全く金属を使用しない補綴物も幅広くできています。

今回から、<ジルコニア>をご紹介します。

ジルコニアは「ホワイトメタル」と呼ばれていた事により、金属と誤解される事もありますが、ジルコニウム酸化物の焼結体であり、セラミックスに分類されます。

無機物を焼き固めた焼結体であるセラミックスは、非常に安定した化学構造を有しているため、材料成分の溶出は極めて低いと考えられています。

#### 《 ジルコニアとポーセレンとの比較 》

従来のポーセレンでは、金属の裏装が必要であった為、主に唇側、頬側面での金属色の透過という問題がありました。又、咬合面でのクリアランス不足の際も、頬側のみのポーセレン層で、咬合面は、金属が露出してしまふという事もありました。

ジルコニアは、高強度という事や、元々、白色という事で、これらの問題に対応する事が可能となりました。



メタルボンド



ジルコニア

マージン部の比較



メタルボンド(金属露出)



ジルコニア

咬合面のクリアランスが少ないケース